

## 火元別の初期消火のポイント

### 油 な べ

慌てて水をかけるのは厳禁。消火器がなければ、濡らした大きめのタオルやシーツを手前からかけ、空気を遮断して消火する。



### 石油ストーブ

真上から一気に水をかけて消火する(斜めにかけて石油が飛び散って危険)。石油が飛び散っていくようなら毛布などで覆い、その上から水をかけて消火する。



### 衣 類

衣類に火がついたら、転げ回って消すも方法。髪の毛の場合なら衣類(化学繊維は避ける)やタオルなどを頭からかぶる。

### 風 呂 場

空気が室内に供給され、火の勢いが強まる危険があるため、風呂場からの出火に気づいてもいきなり戸を開けない。徐々に戸を開けて一気に消火をする。

### 電 気 製 品

いきなり水をかけると感電の危険があるため、コードをコンセントから抜いて消火する。その際は、できればブレーカーも切る。



### カーテン・ふすま

カーテンやふすまなどの立ち上がり面に火が燃え広がったら、もう余裕はない。引きちぎり蹴り倒して、火元を天井から遠ざけその上で消火をする。



## ■ 消火器の正しい使い方

火を目の前にすると、動揺し冷静に対処するのが難しくなります。以下に記した消火器の使用の手順や火の消し方などを確認し、火災に備えましょう。

### ▶ 使用の手順

- ①安全ピンを抜く
- ②ホースを外して、火元を狙って
- ③レバーを強く握って放射



### ▶ 消火器の構え方と火の消し方

- 風上に回り風上から消火する。火災には正面から立ち向かわないように注意する。
- やや腰を落とし、姿勢をなるべく低くする。熱や煙を避けるように構える。
- 燃え上がる炎や煙にまどわされず、燃えているものにノズルを向け、火の根本を掃くように左右に振る。



## 火災予防に関する出前講座などを受講してみませんか

町消防署では、町内会や自主防災会などが火災について学ぶことができる出前講座等を実施しています。

具体的には、119番の電話のかけ方、消火器の使い方、煙の体験ができる設備を使用した訓練などがあります。

これに加え本年度からは、講習会を受講した消防団員の方々が出前講座での指導役を担う体制も整えています。お気軽にご相談ください。



お問い合わせ 町消防署 (☎852・2028)  
町住民生活課 (☎852・5112)



シリーズ 高めよう防災意識

# 火災への備え

町消防本部では火災防犯訓練などを実施し、町民の安心安全な暮らしを守るため、日夜活動にあたっています。

### もし火災が発生したら 3分以内の初期消火が肝心

火災が発生した際、小さな火のうち消すことを「初期消火」といいます。小さな火とは、まだ火が天井へ到達しておらず、壁やふすまなどでとどまっている状態のことです。火災発生時は、次の「初期消火の3原則」を意識し、状況に応じた対応をしましょう。

#### ■ 初期消火の3原則

**原則①「早く知らせる」**  
● 「火事だ」と大声を出し、隣近所に援助を求める。声が出なければやかんなどを叩き、異変を知らせる。

#### 原則②「早く消火する」

● 小さな火でも119番に通報する。当事者は消火を行い、通報は近くの人に頼む。  
● 出火から3分以内が消火できる限度。  
● 水や消火器だけで消そうとせず、座布団で火を叩いたり、毛布で火を覆ったりするなど、近くにあるものを活用する。

**原則③「早く逃げる」**  
● 天井に火が燃え移った場合は、速やかに避難する。  
● 避難するときは、燃えている部屋の窓やドアを閉めて空気を絶つ。

11月に入り、肌寒さを感じる季節となりました。これからの時期は、ストーブなどの暖房器具の使用頻度が増加し、身近な災害である火災の発生件数が増える傾向にあります。  
また、大規模な地震が発生した場合の二次災害として、特に住宅密集地での火災は脅威となります。  
今月号では、「火災」をテーマに、住民の皆さまに備えてもらいたい防災知識について紹介します。

町住民生活課 (☎852・5112)  
町消防署 (☎852・2028)